

標準作型

○印・植え付け

□印・収穫

作型	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
マルチ	○	—————→						□					

栽培のポイント

連作により黒腐菌核病、イモグサレセンチュウなどが発生しやすくなるので、連作はせず、3～4年に1度の作付けとする。発芽適温・生育適温ともに15～20℃。25℃を超えると生育が抑制される。好適pHは6.0～6.5。排水が悪い圃場では春腐病や軟腐病が発生しやすいので、高うねにするなど、排水性を良くすることが望ましい。

品 種 上海種（嘉定種）：鱗片数が6～9片の暖地系品種。
平戸：鱗片数が8～10片の暖地系品種。

畑の準備 植付けの1ヶ月くらい前に苦土石灰（10kg/a）、堆肥（100kg/a）を施しておく。

元 肥 植付け前に施して軽く土と混和しておく。

(1a当たりの使用量)

肥料名	施肥量	施肥時期
ジシアン有機化成S806号	20kg	植付け前

種球の準備 植付ける種球はなるべく1片が5g以上のものを使用する。
黒腐菌核病やイモグサレセンチュウの被害が懸念される場合は、種子消毒を行う。

植付け 植付け適期は10月中旬。
植付ける深さは覆土が5～7㎝程度とする。浅いと裂球の発生や球の肥大不足を招き、深すぎると発芽が揃わず、球の大きさがばらつく。
栽培期間が長い場合、マルチ栽培を基本とする。マルチは穴あき黒マルチ9415を使用。他のマルチを使用する場合でも、株間・条間は15㎝以上の間隔をとる。

トウ摘み 4月中旬頃から抽台（トウ立ち）が始まる。
トウが揃った4月中下旬に摘みとりを行う（トウが約20～30㎝伸びた頃）。

病虫害防除 春腐病対策として年内に1回、年明け2、3、4月に各1回ずつ防除を行う。

収 穫 トウ摘みから1週間ほど経過し、下葉が2～3枚枯れた頃に試し掘りをする。りん茎の底がほぼ平からへこむ程度に肥大していれば収穫適期。収穫後はすぐに根を切り、風当たりの良いところで乾燥させる。乾燥状況が悪いとカビの発生が助長される。

※作物名『ニンニク』で登録が取れている農薬を散布した場合、トウ（ニンニクの芽）を出荷することはできないので注意する。